

第 1 章 市 勢

- 1 沿 革
- 2 位 置 ・ 地 勢
- 3 面 積
- 4 気 候
- 5 人 口

1 沿革

前橋は古くは「まやはし」と称した。「厩橋」が「前橋」に改められたのが西暦1648年から1652年、酒井忠清が城主であった頃だと言われている。

「厩橋」の名は、現在利根川の流れているあたりに車川と称する流れがあり、そこにかかっていた橋を「駅家（うまや）の橋」と呼んだことから、自然に地名になったと伝えられている。

前橋市域には、700余基もの古墳があった。この中には、東国では最も古いとされる天神山古墳から、終末期古墳の典型とされる宝塔山古墳に至るまでの各期のものがある。また、墳丘や石室にも巨大なものがあり、副葬品にも優秀なものが多い。こうした優れた古墳文化を背景として、律令体制の中にあつては、国府設置の場となり、上野国の政治的中心地となった。このため国分寺や山王廃寺などの建設されるところとなり、仏教文化の華が咲きほこった。

群馬（くるま）の郡、駅家（うまや）の郷、群馬（くるま）の駅など前橋の地名が出てくるのが10世紀平安中期で、平安から鎌倉時代にかけては、日輪寺の十一面観世音像、善勝寺の鉄造阿弥陀如来座像がつくられた。

厩橋城の築かれたのは文明年間（1470年代）とされているが、この城は戦国時代、上杉・武田・北条氏等の攻防の的となり、特に永禄10年（1567年）の戦いでは、武田・北条氏のために、当時繁栄していた天川原、六供方面の町並みが焼き払われ、町の中心は旧利根川の河原であつた低地に移った。これが現在の中心街である。（利根川の変流は1400年代であると言われている。）

徳川時代になって酒井氏が川越から移って城主となり、9代150年の長きにわたって城主となり、その後松平氏に代わったが、松平氏は利根川の洪水による城地決壊のため、わずか19年で川越に移城し、前橋は99年の間廃城の状態が続いた。このため町は衰微の極に達したので、城の再築を願って町の復興を図り、慶応3年（1867年）松平氏を再度前橋に迎えたが、まもなく明治維新となった。

これより先、前橋の主産業の製糸は安政6年の横浜開港と藩主松平氏の奨励により盛んとなり、明治に入って糸の町前橋の名はますます高まった。

明治14年県庁が前橋に置かれることになって町の繁栄の基礎が築かれ、明治22年町制を施行、同25年県内最初、関東で4番目、全国で41番目に市制を施行した。

その後、明治34年上川淵の6大字を合併、43年には1府14県の大共進会を開催、大正年間に北部、南部の両耕地整理、昭和に入って上水道を布設した。

太平洋戦争終結の直前、すなわち昭和20年8月戦災を受けて中心市街地の8割を焼失するという被害を受けたが、これを機に戦災復興事業を施行して市の復興を図るとともに、29年以来近接町村を合併して市域を拡大し、35年には消費都市から生産都市への転換を目標に、首都圏都市開発区域の指定を受けて工場誘致を実施し大いに成果を上げた。

また、近代的都市建設のための都市改造事業、区画整理事業等を積極的に進めるとともに、42年5月に城南村を合併した。

平成13年には特例市の指定を受け、平成16年12月5日に、大胡町・宮城村・粕川村を合併した。平成21年4月には県内初の中核市へ移行し、5月5日に富士見村を合併した。そして、令和4年には市制施行130周年を迎え、群馬県の県都としてさらなる躍進を目指して歩み続けている。

2 位置・地勢

本市は群馬県の中央部よりやや南に位置し（市役所の位置は、東経139度03分48秒、北緯36度23分22秒）、東京から北西約100kmの地点にある。

市域の北部は上毛三山の雄、赤城山に至り、北から南に向かって緩やかな傾斜となっている（最も高いところは富士見町赤城山（国有林）の海拔1,823m、最も低いところは、下阿内町の64m）。

市の中央部から南部にかけては、海拔100m前後の関東平野の平坦地が広がり、本市の西部を縦に流れる利根川の両側に市街地が開けている。

3 面 積

本市の面積は311.59km²であり、群馬県面積の約4.9%を占めている。明治25年4月市制施行当時は、わずか7.71km²にすぎなかったが、隣接町村の編入・合併により、市発足当時の約40倍の市域となり現在に至っている。

《市域の変遷》

編入年月日	編入地域	面積 (km ²)		人口 (人)	
		編入	累計	編入	累計
明25. 4. 1	市制施行		7.71		31,967
34. 4. 1	上川淵村6大字（六供、前代田、天川原、市ノ坪、紅雲分、宗甫分）編入	4.17	11.88	2,400	38,699
昭26. 4. 1	桂萱村大字三俣の一部編入	0.10	11.98	954	100,411
29. 4. 1	上川淵、下川淵、芳賀、桂萱、元総社、東村及び総社町編入	69.04	81.02	47,607	152,167
29. 9. 1	南橋村編入	14.90	95.92	11,221	163,765
30. 1. 20	清里村、新高尾村2大字の一部編入	4.40	100.32	2,707	166,955
30. 4. 1	木瀬村の一部（天川大島、野中、上大島、上長磯、女屋、東上野）編入	5.94	106.26	4,021	171,315
32. 10. 10	城南村2大字（下長磯、小島田）編入	1.20	107.46	881	172,860
35. 4. 1	玉村町4大字（西善、山王、中内、東善）城南村2大字（東駒形、駒形）編入	5.94	113.40	5,491	187,299
42. 5. 1	城南村編入	33.91	147.31	15,059	220,180
43. 7. 1	高崎市と境界変更	0.08	147.39		
平 3. 4. 1	国土地理院公表に伴う変更		147.35		
5. 9. 1	伊勢崎市と境界変更	△0.01	147.34		
8. 11. 1	富士見村との境界変更（嶺町）		147.34		
10. 11. 1	群馬町との境界変更（元総社町）		147.34		
10. 11. 1	富士見村との境界変更（嶺町）		147.34		
12. 11. 1	大胡町との境界変更（泉沢町）		147.34		
16. 12. 5	大胡町、粕川、宮城村編入	93.88	241.22	37,849	320,950
21. 5. 5	富士見村編入	70.42	311.64	22,767	340,960
27. 6. 1	国土地理院公表に伴う変更		311.59		

4 気 候

本市の気候は、北から西に連なる赤城、上信越の山々に囲まれて、やや内陸性を帯び降雨量は少ないほうである。年間の平均気温は14度から15度であるが、気温の差は大きいので四季の変化に富んでいる。

例年6月から8月にかけて、南東の風が吹く。夏季は気温が高く、雷が激しい。霧はまれである。11月から翌年4月にかけては晴天が多く、北西の季節風が吹き、特に冬季の風は強く、俗に「上州のからっ風」と呼ばれている。

5 人 口

本市の人口は、明治25年の市制施行当時は、31,967人であったが、令和6年3月31日現在では328,996人となり、この130年間で約10倍に増加した。

人口の分布状態は、本庁管内55,601人（16.9%）、支所・市民サービスセンター管内273,395人（83.1%）であるが、都市化の進展に伴い支所・市民サービスセンター管内における工業、住宅団地の造成が活発に進められ、これらの地域への人口の吸収定着が目立ち、いわゆるドーナツ化現象が認められる。

ア 人口の推移

（各年3.31現在）

年次別	面積 (km ²)	世帯数	人口(人)			人口密度 (1km ² 当り)
			総数	男	女	
明治25年	7.71	5,653	31,967	-	-	4,146
大正元	11.88	8,359	48,006	23,841	24,165	4,041
昭和元	〃	15,090	79,356	36,240	43,116	6,680
平成元	147.39	92,380	282,102	137,906	144,196	1,914
17	241.22	121,659	319,414	156,173	163,241	1,324
22	311.64	135,520	340,383	166,566	173,817	1,092
令和3	311.59	152,026	334,535	163,835	170,700	1,074
4	〃	152,358	332,063	162,466	169,597	1,066
5	〃	153,436	330,358	161,494	168,864	1,060
6	〃	155,501	328,996	160,925	168,071	1,056

※ 住民基本台帳法改正（平成24年7月9日）以降は外国人を含む。

イ 地区別住民基本台帳人口・世帯数

（令6.3.31現在）

地区名		世帯数	人口			1世帯 当り人口	面積 (km ²)	密度(1km ² 当り)	
			総数	男	女			世帯	人口
総数		155,501	328,996	160,925	168,071	2.1	311.59	499	1,056
本庁管内		28,809	55,601	26,524	29,077	1.9	13.18	2,186	4,219
支所・市民サービスセンター管内	上川淵	11,587	24,367	11,673	12,694	2.1	12.87	900	1,893
	下川淵	3,807	9,348	4,570	4,778	2.5	9.16	416	1,021
	芳賀	4,099	8,924	4,367	4,557	2.2	16.09	255	555
	桂萱	13,336	27,894	13,733	14,161	2.1	16.74	797	1,666
	東	15,052	31,898	15,654	16,244	2.1	6.86	2,194	4,650
	元総社	8,622	16,483	8,132	8,351	1.9	6.19	1,393	2,663
	総社	6,743	13,974	7,007	6,967	2.1	5.74	1,175	2,434
	南橘	19,044	38,710	18,819	19,891	2.0	14.34	1,328	2,699
	清里	1,518	3,605	1,752	1,853	2.4	3.90	389	924
	永明	11,017	23,685	11,594	12,091	2.1	12.26	899	1,932
	城南	7,424	17,732	8,842	8,890	2.4	30.00	247	591
	大胡	7,591	17,454	8,615	8,839	2.3	19.76	384	883
	宮城	3,056	7,136	3,559	3,577	2.3	48.13	63	148
	粕川	4,309	10,113	5,061	5,052	2.3	25.96	166	390
	富士見	9,487	22,072	11,023	11,049	2.3	70.40	135	314
支所・市民サービスセンター管内計		126,692	273,395	134,401	168,071	2.2	298.40	425	916

※ 外国人を含む。

※ 面積は地区名ごとに単位未満を四捨五入しているため、内計と総数は一致しない。

ウ 人口動態

(各年前年10月～9月)

年 次	自 然 動 態		社 会 動 態		人 口 増 加		
	出 生	死 亡	転 入	転 出	自然増加	社会増加	計
令和元年	2,304	3,921	12,498	12,143	△1,617	355	△1,262
令和2年	2,252	3,895	11,755	11,235	△1,643	520	△1,123
令和3年	2,140	3,956	11,645	11,139	△1,816	506	△1,310
令和4年	2,093	4,242	12,455	12,187	△2,149	268	△1,881
令和5年	1,976	4,497	13,023	12,556	△2,521	467	△2,054

※ 外国人を含む。

(群馬県移動人口調査結果)

エ 産業別就業人口

区 分 産業別		平 成 27 年		令 和 2 年	
		就 業 者 数	構 成 比	就 業 者 数	構 成 比
第 1 次	A 農業・林業	6,749人	4.2%	6,358人	4.0%
	B 漁業	18	0.0	15	0.0
	小 計	6,767	4.2	6,373	4.1
第 2 次	C 鉱, 採石, 砂利採取業	8	0.0	14	0.0
	D 建設業	13,319	8.2	12,372	7.9
	E 製造業	23,780	14.6	23,249	14.8
	小 計	37,107	22.8	35,635	22.7
第 3 次	F 電気・ガス・熱供給・水道業	844	0.5	872	0.6
	G 通信 ・ H 運輸業	9,948	6.1	10,131	6.4
	I 卸, 小売 ・ M宿泊, 飲食業	34,420	21.2	32,272	20.5
	J 金融, 保険業	4,639	2.9	4,163	2.6
	K 不動産業	2,591	1.6	2,602	1.7
	L N O P Q R サービス業	53,309	32.8	54,665	34.8
	S 公務 (他に分類されないもの)	6,362	3.9	6,529	4.2
	小 計	112,113	69.0	111,234	70.7
分 類 不 能	T 分類不能の産業	6,444	4.0	4,024	2.6
合 計		162,431	100.0	157,266	100.0

(国勢調査)

※ 構成比は項目ごとに小数点以下を四捨五入しているため、内計と合計は一致しない。

(参 考)

令和2年国勢調査人口確定数

人 口	332,149人	{	男	162,298人
			女	169,851人

世 帯 数 141,882世帯

対前回比 人口：1.2%減 世帯：3.6%増